

平成 27 年度第 2 回北海道立生涯学習推進センター運営協議会会議記録要旨

1 開催日時

平成 28 年 3 月 1 日（火）13：30～15：25

2 開催場所

札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地 かでる 2・7（8 階）

北海道立生涯学習推進センター創作実習室

3 審議等の内容

(1) 報告事項

ア ジュニアカレッジ生（小中学生）から一般カレッジ生（高校生以上）への学習単位の接続方法について

イ サーバー更新に伴う新ホームページについて

(2) 議事

ア 平成 27 年度事業実施状況（1 月末現在）

イ 平成 28 年度運営計画（案）

ウ その他

- ・生涯学習推進センター運営協議会の統廃合について

4 出席者

- 北海道立生涯学習推進センター運営協議会委員（会長、副会長以下委員五十音順）
木村会長、佐藤副会長、宇山委員、喜多委員、楠委員、小賀委員、後藤委員、坂本委員、三上委員、矢野委員
- 北海道立生涯学習推進センター職員（運営協議会事務局）
阿部所長、柴田主幹、柴野主査、櫻井主査、會田主査、久保主査、吉光寺社会教育主事、石手洗主任

5 審議等の概要

事務局による説明の後、委員が意見を述べた。主な発言は次のとおり。

（以下、発言順の掲載 ○委員 ●事務局）

(1) 報告事項

ア ジュニアカレッジ生（小中学生）から一般カレッジ生（高校生以上）への学習単位の接続方法について

イ サーバー更新に伴う新ホームページについて

- （ジュニアカレッジ生（小中学生）から一般カレッジ生（高校生以上）への学習単位の接続方法について、報告資料 1 に基づき説明。）

- (サーバー更新に伴う新ホームページについて、報告資料2に基づき説明。)
- ジュニアカレッジ生が一般カレッジ生に移行するための手立てとして、どのようなことを考えていますか。
- 当ビル9階のまなびの広場での周知を図るとともに、各道立体験活動支援施設の主催事業に参加する小中学生に働きかけてまいります。
- ジュニアカレッジ生向けのカラーチラシを、白黒で印刷すると見にくくなるのではないでしょうか。
- 白黒印刷をするときには、濃淡を工夫して見やすくします。

(2) 議事

ア 平成27年度事業実施状況(1月末現在)について

- (各担当者から、資料1に基づき説明。)
- 調査研究について、実態調査のアンケート回収率が78%となっていますが、いつも同程度の回収率なのでしょうか。
- 回収率としては8割を目指しており、例年並みであったと考えています。
- 問題を抱えていて回答しない市町村があるということはないですか。
- 調査期間内に回答していただける市町村が8割ということで、期間を延ばせばほぼ全ての市町村から回答していただくことができます。各市町村においても、社会教育関係の職員が少なくなっている中で様々な調査に回答しなければならないので、調査時期の関係で回答期間が延ばせないと8割程度にとどまってしまう。
- 家庭教育相談について、なぜ13時から17時という時間帯で設定されているのでしょうか。子どもが学校へ行っている午前中から昼を挟んだくらいの時間帯のほうが来所しやすいと思うのですが。
- 「家庭教育相談事業費」に係る家庭教育カウンセラー取扱要綱の中で、勤務日や勤務時間が定められております。
- カウンセラーの先生方が、スクールカウンセラーを兼ねている方や、御自身で相談室を開業されている方もおり、その時間帯を外して設定しているということもありますが、当センターに相談に来られる方は、親子で相談に来られるケースも多く、学校が終わってから来所しやすい時間設定にもなっています。
- 確認ですが、18ページに書かれている「道民カレッジのレポート提出者数」は、レポートの提出本数ということですか。
- はい、そうです。
- 地上波のテレビ放送での講座からインターネット講座に変わったことで、何か特徴的な変化

はありましたか。

- インターネット環境になったことで、スマートフォンでも視聴できるようになり、20代や30代の方を含めて幅広い年齢層の方が視聴するようになりました。
- 3ページのアンケート結果を見ると、各市町村で「医療」や「福祉」、「地域の担い手づくり」などの様々な講座があるようですが、どのくらいの数の講座が開設されているのでしょうか。
- 今回、講座数を把握する回答形式での調査は行っておりません。各市町村では他部局と連携しながら行っている事業もあるので、数としてはかなり多いのではないかと推測しています。
- 2ページのアンケートの選択肢「どちらかといえば、行われている」という文言は、どのように捉えたらいいのでしょうか。
- 確かに、文言としては捉えにくいかも知れません。そもそも、「行われていないのではないか」という疑問に端を発して作ったものです。
- 様々な学習機会があるのだということもさることながら、他部局で行われている事業に教育行政がどれだけ関わっているかという視点でデータを読むことが大事だと思います。必ずしも今回の調査では十分に分析できないかも知れませんが、この会議の中にも研究者の先生がいらっしゃるのので、意見を聞いてみるといいのではないのでしょうか。

イ 平成28年度運営計画（案）について

- （各担当者から、資料2に基づき説明。）
- 学校教育でも社会教育でも計画のもとに事業を組んでいくものですが、「ほっかいどう学」大学インターネット講座の追加が「11月頃」というように曖昧な表現になっているのはなぜですか。
- 大学インターネット講座については、放送制作会社にも御協力いただき、実行委員会形式で進めている事業です。11月提供開始と明記したいところではありますが、各方面の事情で時期がずれ込むことも予想されることから、幅を持たせた表現で記載しています。
- 大学インターネット講座については、インターネット配信となったことで、年度ごとに蓄積され、視聴期間が大幅に長くなりました。様々な活用方法が考えられるので、来年度以降検討されると良いと思います。
- 財政の厳しい中、努力されていることは良く理解しています。様々な工夫によって、更に良い事業となると思うので、期待しています。
- 家庭教育相談の件数が増えているようですが、受け入れ態勢としてカウンセラーの数は足りているのでしょうか。
- 3人体制で行っており、今のところ、相談を希望された全員を受け入れることができています。
- 今年度から新たに道庁別館に設置された「子育て支援センター」では、面談だけでなく電話相談も受け付けております。当センターの家庭教育相談は面談が基本ですので、電話相談を希望する方にはそちらを御紹介する等、他の相談機関との連携を図りながら対応していきたいと考えています。

- 調査で浮き彫りとなった地域課題と、家庭教育相談が増えていることとの関連性なども、研究で明らかになることを期待します。
- 家庭教育相談の中には、いじめや不登校に起因するものもあり、学校教育に関する調査のデータも参考にしながら研究を進めていきます。
- 昨今、貧困の問題も出てきており、相談件数にも影響してくるだろうと予想しています。

ウ その他

・生涯学習推進センター運営協議会の統廃合について

- (内容について、口頭説明。)
- 特に御意見や御質問がないようですので、他に委員さんから何かありますか。
- 学校教育も生涯学習の一部ですので、新たな学習機会を創出してリンクできる状況ができたらいと考えています。学習相談を充実させ、新たな提案や周知をお願いします。
- 今日の議題は以上ということになりますが、他に御意見や御質問はありますか。なければ、本日の議事を終了いたします。